

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

はばたけ都田の子 ～元気・勇気・本気～
 ○学ぶ楽しさを知り、共に高めあう子を育てます。(知)
 ○自分も友だちも大好きな、あたたかい子を育てます。(徳)(公)(開)
 ○心と体を鍛え、健やかな子を育てます。(体)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

〈自分づくりに関する能力〉
 〈持続可能な社会の創造に貢献する力〉

具体化した資質・能力

・「思考力・判断力・表現力」の育成を授業研のテーマとして設定し、カリキュラム・マネジメントを通してテーマを意識した授業を展開する。
 ・ユニバーサルデザインの教室環境づくり、授業づくりを推進する。
 ・中学校ブロックの教務主任会や専任会などで得た情報を基に、小中連携、小小連携を強化し、授業参観、音楽会参加、部活動体験等、児童・生徒の交流を充実させる。

中期取組目標

子どもの元気・勇気・本気を生み出すカリキュラム・マネジメントの推進
 ○知的好奇心をもって思いや考えを表現し、学び続ける子どもを育てながら、質の高い学びを目指します。
 ○他者への思いやりをもち、互いの個性を認め合える子どもを育てます。
 ○GIGA端末をツールとして活用しながら、協働的に学ぶ子どもを育てます。
 ○感染症対策を講じながら行事等の見直しを行い、地域との新たなつながりを模索します。
 ○PDCAサイクルを生かしてカリキュラムを改善し、職員の働き方を考えながら、持続可能な学校づくりを進めます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
思考力育成	①子どもが「本気」で思考する場面に焦点を当てた校内授業研究を学年一回行い、子どもが学ぶ楽しさを実感できるような手立てを考える。②「つながる学び」を意識した単元構成を考え、思いを表現できる機会をつくる。③研究テーマに沿った専門的な指導を仰ぐ機会を複数回設定し、指導力の向上を目指す。
担当	思考力育成P

学力向上に関わる本校の状況
<p>○学習意欲は市の平均を上回っており、本校が目指す学ぶ楽しさを実感できる授業の積み重ねが結果に結び付きつつあるが、学力の定着にまでは至っていない状況がある。</p> <p>○学力学習状況調査結果によれば、全体的に市の平均に届かない状況がある。</p> <p>・理科、社会：市平均との差は大きくはないがC層の割合が大きい。</p> <p>・国語：どの学年もD層が一番多く、特に知識の定着に課題がある。語彙の知識が少なく、説明的文章や文学的文章を読む力も低くなっている。語彙力の向上が引き続き必要である。</p> <p>・算数：どの学年もA・B層とD層とに分かれる二山の分布になっている。低学年のときからD層の割合が多いため、基礎・基本の定着が必要である。</p> <p>○生活意識が3年前に比べ、低くなっている。校外生活の意識の低下が見られ、高学年になるほど顕著に表れている。タブレットやスマホを使う時間が増えていることが課題になっている。</p> <p>○令和4年度は、一人一回の校内研究授業を行い、教師の授業力向上に努めた。</p> <p>・具体的には、子どもの思考力向上に焦点を当てた研究を進め、本気で思考する子どもの育成に努めた。授業では、思考したことを積極的に表現しようとする子どもの姿が見られた。今後は、自ら課題をもち、学びを継続すること、そして主体的に学習に取り組めるようになるよう支援していく。</p>

今年度の目標
「本気」で思考する子どもの姿を目指して ～つながる学びで子どもの変容を目指す～
目標を実現するための具体的行動プラン
<p>上半期</p> <p>○校内授業研究会を、学年一回行う。 単元、題材、主題を通して、「本気」で思考する(させる)場面を考える。思いや考えを表現するためには、根拠となる思いや考えをもつことを大切に、という視点で研究を行う。以下の点について協議会にて授業提案をもとに協議する。</p> <p>①思考する場面が適切であったか。 ②授業を通しての子どもの変容は見られたか。</p> <p>・授業者の意識した「つながり」をもとに、部会に分かれて意見交換をしながら、活発な協議を行うことができるようにする。</p> <p>・講師を招いて専門性の高い指導講評をいただき、授業を振り返る。</p> <p>○教職員の必要感に沿った研修を行うことで、指導力向上を目指す。</p> <p>○メンターチームを中心に、経験の浅い教員でも気軽に相談できる関係づくりを目指し研修を続ける。</p> <p>下半期</p> <p>○校内授業研究会を、学年一回行う。 単元、題材、主題を通して、「本気」で思考する(させる)場面を考える。思いや考えを表現するためには、根拠となる思いや考えをもつことを大切に、という視点で研究を行う。以下の点について協議会にて授業提案をもとに協議する。</p> <p>①思考する場面が適切であったか。 ②授業を通しての子どもの変容は見られたか。</p> <p>・授業者の意識した「つながり」をもとに、部会に分かれて意見交換をしながら、活発な協議を行うことができるようにする。上半期の研究の成果を協議に生かすようにする。</p> <p>・講師を招いて専門性の高い指導講評をいただき、授業を振り返る。</p> <p>○教職員の必要感に沿った研修を行うことで、指導力向上を目指す。</p> <p>○メンターチームを中心に、経験の浅い教員でも気軽に相談できる関係づくりを目指し研修を続ける。</p> <p>○一年間通って行ってきた研究の成果をまとめ、次年度に向けて研究の方向性を決める。</p>

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①横浜プログラムを活用し、正しいことを正しいといえる「勇気」をもって行動できる児童の育成を図る。②道徳的心情を養い、他者のよさ、個性を認め合える授業を行う。③「ありがとう」を伝える大切さ、相手の目を見てあいさつする大切さを伝えるとともに、たて割り活動を中心とした異学年交流やあいさつ運動を実施していく。
担当	人権特別支援教育T

豊かな心に関わる本校の状況
<p>○指示されたことは素直に受け入れる姿勢やそれを成し遂げようとする力をもっている。共通の価値観に基づいて自ら考え判断し、行動するまでには至っていない。</p> <p>・道徳科を要として、学校の教育活動全体を通して行う道徳活動を充実させ、指導内容を明確化し振り返りを行うことで実践的な態度を育成している。</p> <p>○「自分にはよいところがある」という問いに対して「ない。」「分からない。」「答える子どもが少ない。自分は大切にされている、自分は必要とされているという自己有用感とともに高めていく必要がある。</p> <p>・子どもの社会的スキル「横浜プログラム」の活用や、「Y-Pアセスメント」による支援検討会を積極的に取り入れることで、自尊感情を高めたり、他者を受け入れることのできる資質を高めたりしている。</p> <p>○様々な理由で登校支援が必要な子どもが複数学年にいます。</p> <p>・いじめは絶対に許さないという姿勢を子どもたちに朝会や授業を通して伝えたり、登校支援の必要な子どもに対する粘り強い姿勢を示したりすることで、安心して登校できる環境づくりを行っている。</p> <p>○子ども同士の大きなトラブルは少ないが、「つい」「ふざけて」といった軽い気持ちから友達を傷つける行為に及んでしまう様子が見られる。</p>

今年度の目標
自分や他者のよさを感じながら、関わり合える子どもを育てる。
目標を実現するための具体的行動プラン
<p>上半期</p> <p>○「Y-Pアセスメント」と連携させて「横浜プログラム」に取り組み、他者を受け入れながら関わるスキルを高めていく。また、いじめの起きにくい学級風土づくりに努め、子ども一人ひとりが自他を大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>○キャリアパスポートや縦割り活動を活用し、学年に応じて自分の役割を果たす経験を重ねていくことで、自己有用感や自己肯定感を高めていけるようにする。</p> <p>○相手の目を見てあいさつをしたり、「ありがとう」を伝え合ったりすることで、集団生活の中で自他のよさを感じながら関わり合えるようにする。</p> <p>○児童会の活動を生かして「あいさつ運動」に取り組み、あいさつの大切さをとらえるとともに、自分から思いを伝え、関わっていかうとする態度を養う。</p> <p>○夏休み明けには二者面談を行い、人権意識を高めたり、子どもの理解を深めたりする。</p> <p>○夏休み明けには二者面談を行い、安心して登校できる環境を整える。また、必要に応じてアンケートや面談を実施することで人間関係の育成と指導の充実を図る。</p> <p>○誰もが、安心して過ごせる教室整備を目指し、ユニバーサルデザインの教室環境づくり、授業づくりをさらに進める。</p> <p>下半期</p> <p>○「Y-Pアセスメント」と連携させて「横浜プログラム」に取り組み、他者を受け入れながら関わるスキルを高めていく。他者とかかわり、比べる中で自分の個性に気付き、肯定的に受け止めようとする心情を養っていく。</p> <p>○キャリアパスポートや縦割り活動を活用し、学年に応じて自分の役割を果たす経験を重ねていくことで、自己有用感や自己肯定感を高めていけるようにする。</p> <p>○相手の目を見てあいさつをしたり、「ありがとう」を伝え合ったりすることで、集団生活の中で自他のよさを感じながら関わり合えるようにする。</p> <p>○人権週間で「横浜プログラム」を活用し、個性の伸長や自己肯定感の向上を図る。</p> <p>○キャリアパスポートや縦割り活動の振り返りを行い、自分の成長を実感できるようにし、自己肯定感を高め、来年度の自分の姿のイメージや目標をもてるようにする。</p> <p>○支援が必要な子どもには個別の教育支援計画を作成し、保護者・本人とも共有することで丁寧な支援を行えるようにする。</p>

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①感染症対策・熱中症対策を行いながら、子どもが自分に合った「元気」を引き出す取組を実施する。②なわとび運動を継続し、なわとび週間や大会を通して体力向上を目指す。③食育を含めた「基本的な生活リズム」の重要性について、保健だよりや懇談会等を活用し、子ども・保護者への周知を図る。
担当	体力・健康・安全教育T

健やかな体に関わる本校の状況
<p>○体の健康</p> <p>・体を動かすことが好きな子どもが多く、積極的に外遊びをする姿が見られる。</p> <p>・なわとび運動の成果で、体力や縄跳びの技能が向上した。</p> <p>・睡眠時間が平均して6時間を下回る児童の数が多。</p> <p>・ボールを投げたり、バットで打ったりする基本動作ができていない子どもが多い。</p> <p>・運動不足の子ども、肥満傾向にある子どもの割合が増えている。(肥満の割合：7.1%)</p> <p>・新体力テストの結果では、「全身持久力」「筋持久力」「俊敏性」について市平均・全国平均を下回った。</p> <p>・視力検査の結果、視力低下傾向が見られ、視力0.7以下の割合が全国平均を大きく上回った。</p> <p>・全国学力学習状況調査の結果では、ゲームや動画視聴等の操作時間が全国平均と比較しても高い傾向であった。</p> <p>・給食の残食率が比較的多い。特に野菜や魚、果物などが多く残る傾向にあり、偏食傾向にある子どもが多い。</p> <p>・保健室の利用状況を見ると、朝食の欠食や単食、不規則な就寝時刻等、生活リズムが崩れている子どもが多い。</p> <p>○心の健康</p> <p>・明るく素直で、何事にも頑張っており取り組もうとする子どもが多い。</p> <p>・本年度になり、地域の方にもあいさつをする子どもが増えている。</p> <p>・一方で、不安傾向が強い子どもが増えてきている。</p>

今年度の目標
自らの心と体の健康を考え、進んで行動する子どもを育てる。
目標を実現するための具体的行動プラン
<p>上半期</p> <p>・体育の授業の中で運動量の確保を意識して授業を行う。</p> <p>・一校一実践の取組でなわとび運動を奨励し、短縄だけではなく、長縄の運動も良い、集団で運動の喜びを味わう機会を設ける。</p> <p>・委員会活動等で運動・スポーツに興味をもつことができるような活動を年間通して行う。</p> <p>・各教科の中で食育の学習を実践し、身体に良い食べ物を進んで摂ろうとする態度を育てるために食べ物の働きについて理解を深めていく。</p> <p>・保健だより等で、規則正しい生活リズムや、睡眠の大切さについて周知を図り、家庭と連携できるようにする。</p> <p>・元気委員会(集会の形)で、「ぐっすり眠って、元気チャージ！」をテーマに取り組み、睡眠の大切さや自分の生活リズムを見直す機会をもつことができるようにする。</p> <p>・健康観察アプリを活用した健康観察、手洗いやハンカチ持参等の感染予防対策を行う。</p> <p>・健康診断結果を活用して、校区と連携した効果的な事後指導を行う。</p> <p>下半期</p> <p>・体育の授業の中で運動量の確保に加え、児童が自己の課題を把握し、課題に応じた運動を選んで取り組むことができるようにする。</p> <p>・一校一実践の取組でなわとび運動を奨励し、短縄だけではなく、長縄の運動も良い、集団で運動の喜びを味わう機会を設ける。</p> <p>・委員会活動等で運動・スポーツに興味をもつことができるような活動を年間通して行う。</p> <p>・給食週間の取り組みを通して、調理員さんに感謝の気持ちをもつことができるようにすると共に、自分の給食のあり方について振り返り、自身のめあてをもてるようにする。</p> <p>・保健だより等で、規則正しい生活リズムや、睡眠の大切さについて周知を図り、家庭と連携できるようにする。</p> <p>・元気委員会(集会の形)で、「ぐっすり眠って、元気チャージ！」をテーマに取り組み、睡眠の大切さや自分の生活リズムを見直す機会をもつことができるようにする。</p> <p>・健康観察アプリを活用した健康観察、手洗いやハンカチ持参等の感染予防対策を行う。</p>